

# 2023年5月期 決算説明資料

2023年7月



 **室町ケミカル株式会社**  
(東証スタンダード 証券コード：4885)

## 1. 会社概要

## 2. 2023年5月期 決算概要

## 3. 業績予想

## 4. 中期経営計画の取り組み状況・トピックス

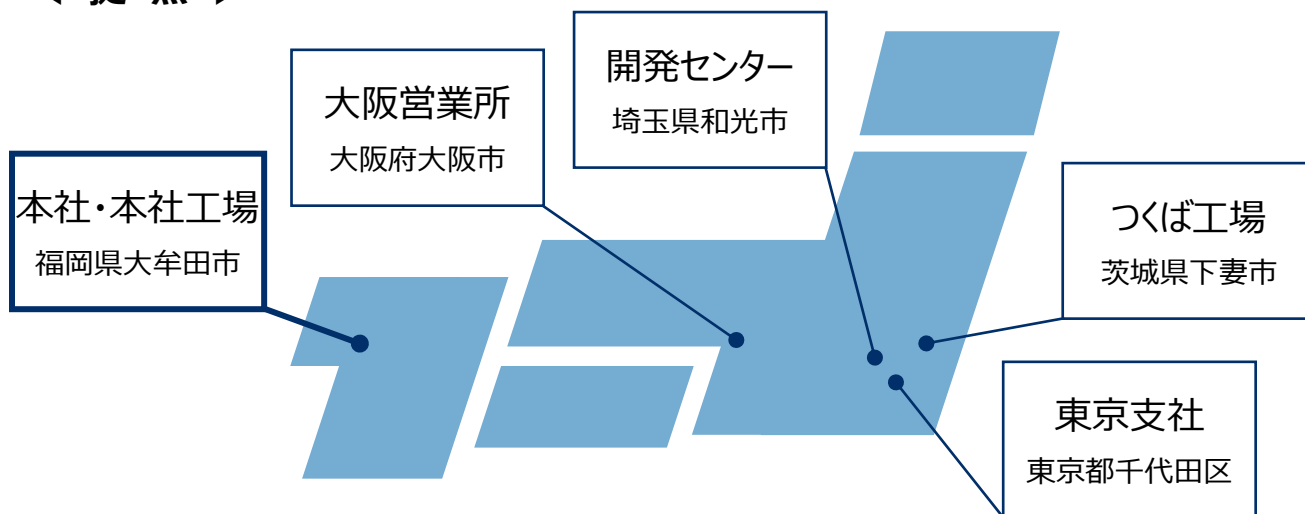
## 5. 参考資料

# 会社概要



会社名	室町ケミカル株式会社 (MUROMACHI CHEMICALS INC.)
代表者	代表取締役社長 青木 淳一
設立	1947年7月 (創立 : 1917年1月)
資本金	143,172千円
従業員	205名 (2023年5月末現在)

## < 拠点 >



創立当時 (1917年頃)



大牟田市 本社工場

## 「医薬品」「健康食品」「化学品」の3事業

### 医薬品事業

医薬品原薬（薬の有効成分）の製造・販売



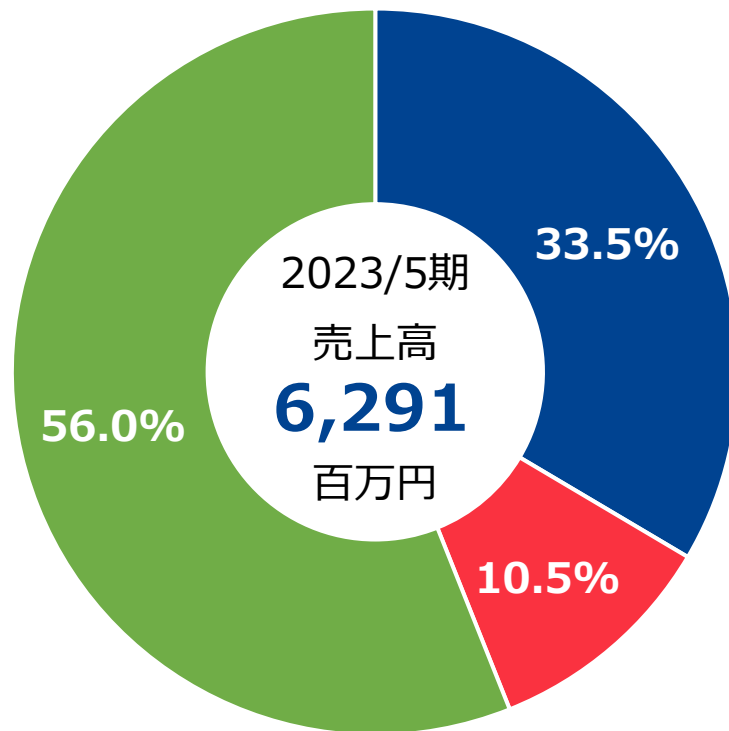
原薬の製造



原薬の精製・異物除去



海外原薬の輸入販売



### 化学品事業

液体から不純物を取り除く液体処理製品の販売・加工



イオン交換樹脂



分離膜



水処理装置



イオン交換樹脂再生設備

### 健康食品事業

スティックゼリータイプなどの健康食品の企画・製造



スティックゼリー



Tパウチゼリー

## < パーパス >

「健康」と「環境」をテーマに、社会へ貢献する



## < 経営理念 >

私たちは人々との出会いを大切にし、  
**常に新たなチャレンジと実現化の努力**により生きがいと豊かさを提供し、  
健全な発展を通して社会に貢献する経営を目指します。

# 2023年5月期 決算概要



- 輸入原薬の売上の伸びが大きく、増収
- 製品・商品の売上構成変化や原材料費の高騰、健康食品事業での工場稼働率低下などにより、原価率は上昇
- 販売費及び一般管理費については営業・開発活動の活発化により上昇

(百万円)

	2022/5期 通期		2023/5期 通期		前年同期比	
		構成比		構成比		増減率
売上高	5,681	100.0%	<b>6,291</b>	100.0%	+610	+10.7%
売上原価	3,948	69.5%	<b>4,539</b>	72.2%	+591	+15.0%
売上総利益	1,732	30.5%	<b>1,752</b>	27.8%	+19	+1.1%
販売費及び一般管理費	1,295	22.8%	<b>1,382</b>	22.0%	+87	+6.7%
営業利益	437	7.7%	<b>369</b>	5.9%	△67	△15.5%
経常利益	423	7.4%	<b>350</b>	5.6%	△72	△17.1%
当期純利益	456	8.0%	<b>256</b>	4.1%	△199	△43.8%



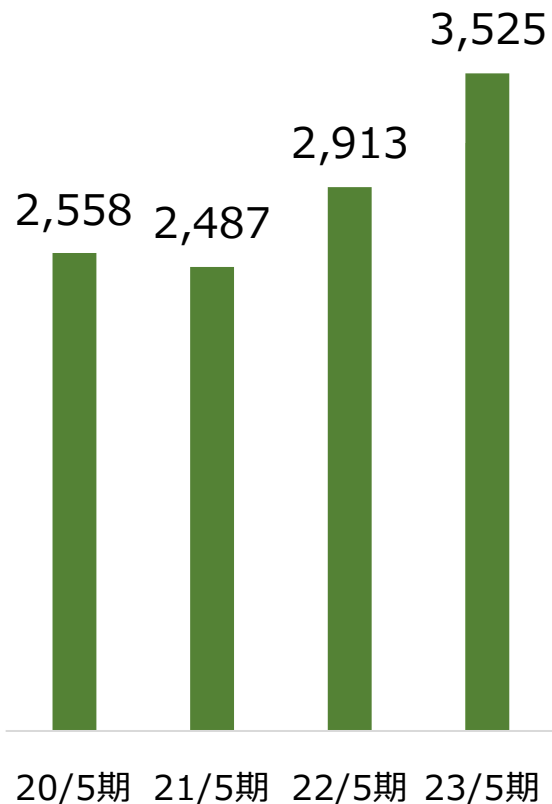
- 医薬品事業は売上の大幅な増加により増収増益
- 健康食品事業はOEMゼリーの売上不振及び原価率の上昇により減収減益
- 化学品事業はイオン交換樹脂の伸長及び開発費等の増加により増収減益

(百万円)

		2022年5月期		2023年5月期		前年同期比	
			構成比		構成比		増減率
売上高	医薬品事業	2,913	51.3%	<b>3,525</b>	56.0%	612	21.0%
	健康食品事業	823	14.5%	<b>657</b>	10.5%	△166	△20.2%
	化学品事業	1,943	34.2%	<b>2,108</b>	33.5%	164	8.5%
営業利益	医薬品事業	451	—	<b>539</b>	—	87	19.3%
	健康食品事業	1	—	△ <b>120</b>	—	△121	—
	化学品事業	△15	—	△ <b>49</b>	—	△33	—

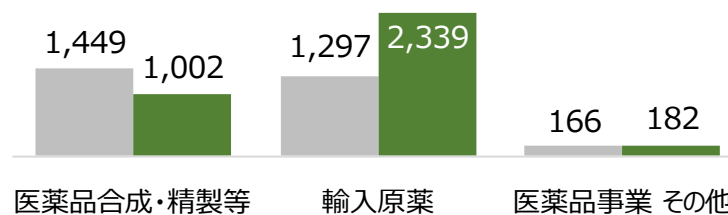
<b>売上高</b>	(前年同期比)	<b>営業利益</b>	(前年同期比)
<b>3,525百万円</b>	(121.0%)	<b>539百万円</b>	(119.3%)

■ 売上高推移 (単位：百万円)



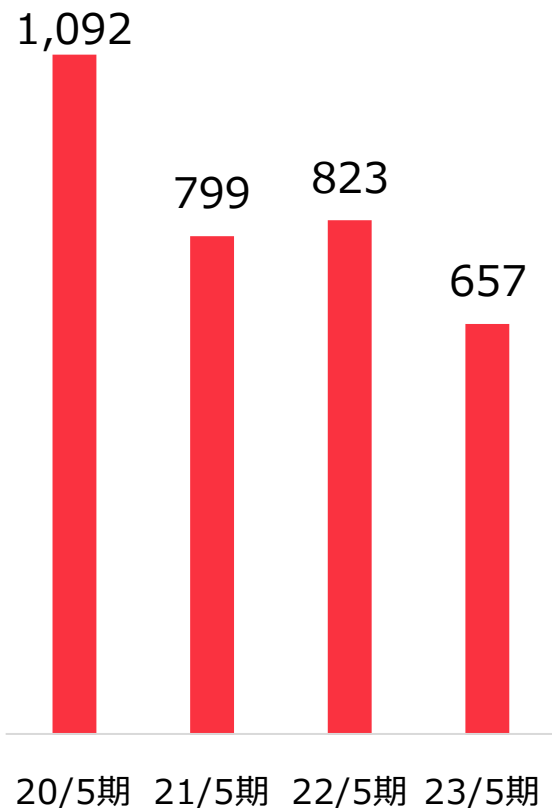
- 加工分野では、前期に大型スポット案件受注のため、前期比で売上減少
- 輸入原薬では、抗てんかん薬、ヘルペスウイルス感染症治療薬、抗炎症点眼剤等の原薬の販売増加
- 商品（輸入原薬）の売上比率が上昇したことで売上総利益率は低下したものの営業利益は増加

■ 商材別売上高 (単位：百万円・■：前期 ■：今期)



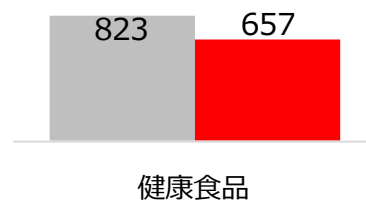
<b>売上高</b> <b>657百万円</b>	(前年同期比) (79.8%)	<b>営業損失</b> <b>▲ 120百万円</b>	(前年同期) (1百万円)
-----------------------------	--------------------	--------------------------------	------------------

■ 売上高推移 (単位：百万円)



- 既存OEM製品について、委託元での販売不振による受注減が重なり、売上が大きく減少
- 生産量の減少により、製造原価率が上昇したため、営業利益が減少

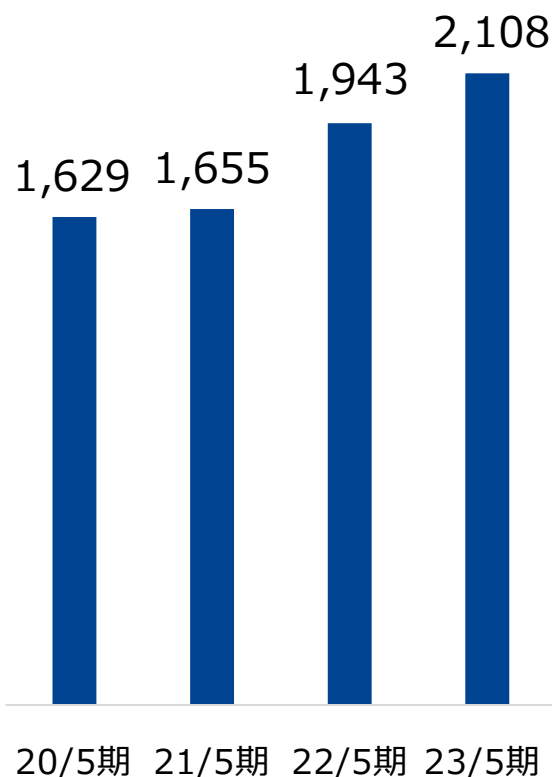
■ 商材別売上高 (単位：百万円・■：前期 ■：今期)



**売上高** (前年同期比)  
**2,108百万円** (108.5%)

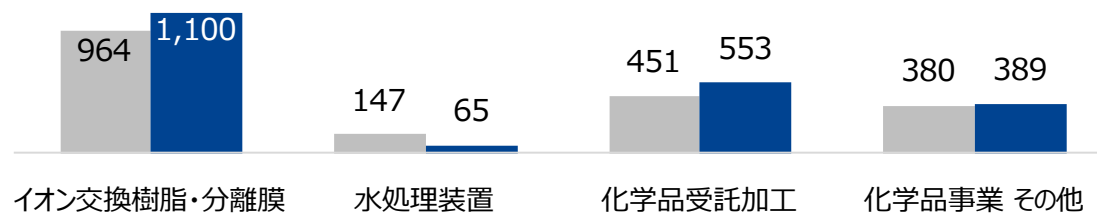
**営業損失** (前年同期)  
**▲ 49百万円** (▲ 15百万円)

■ 売上高推移 (単位：百万円)

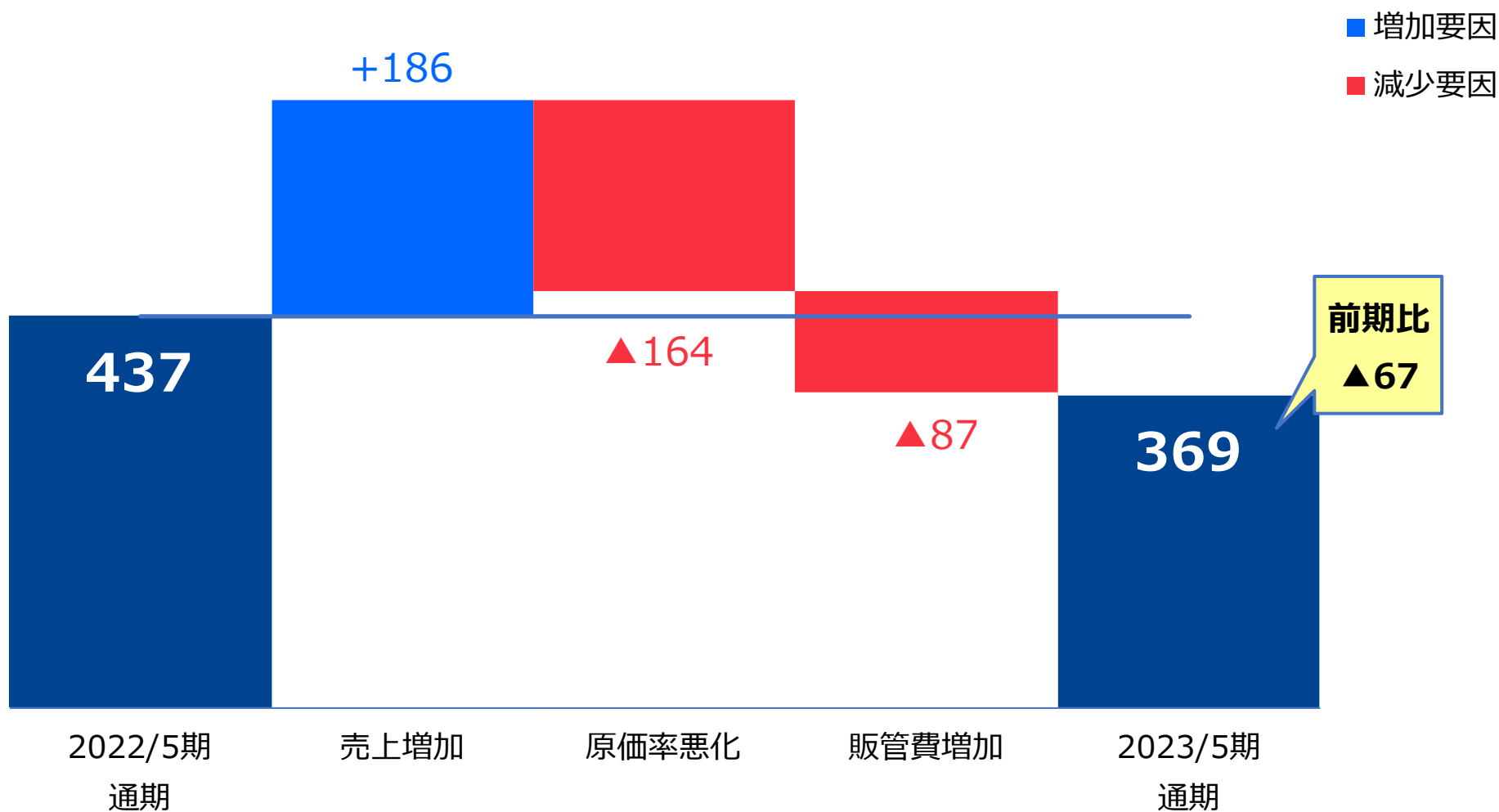


- 装置販売については売上減少となるも（前年度期初に大型装置案件受注のため）、イオン交換樹脂や装置メンテナンスなどの売上増加により増収
- 需要増が見込まれるイオン交換樹脂、装置に関する開発関係費用を増強したため、営業利益は減少

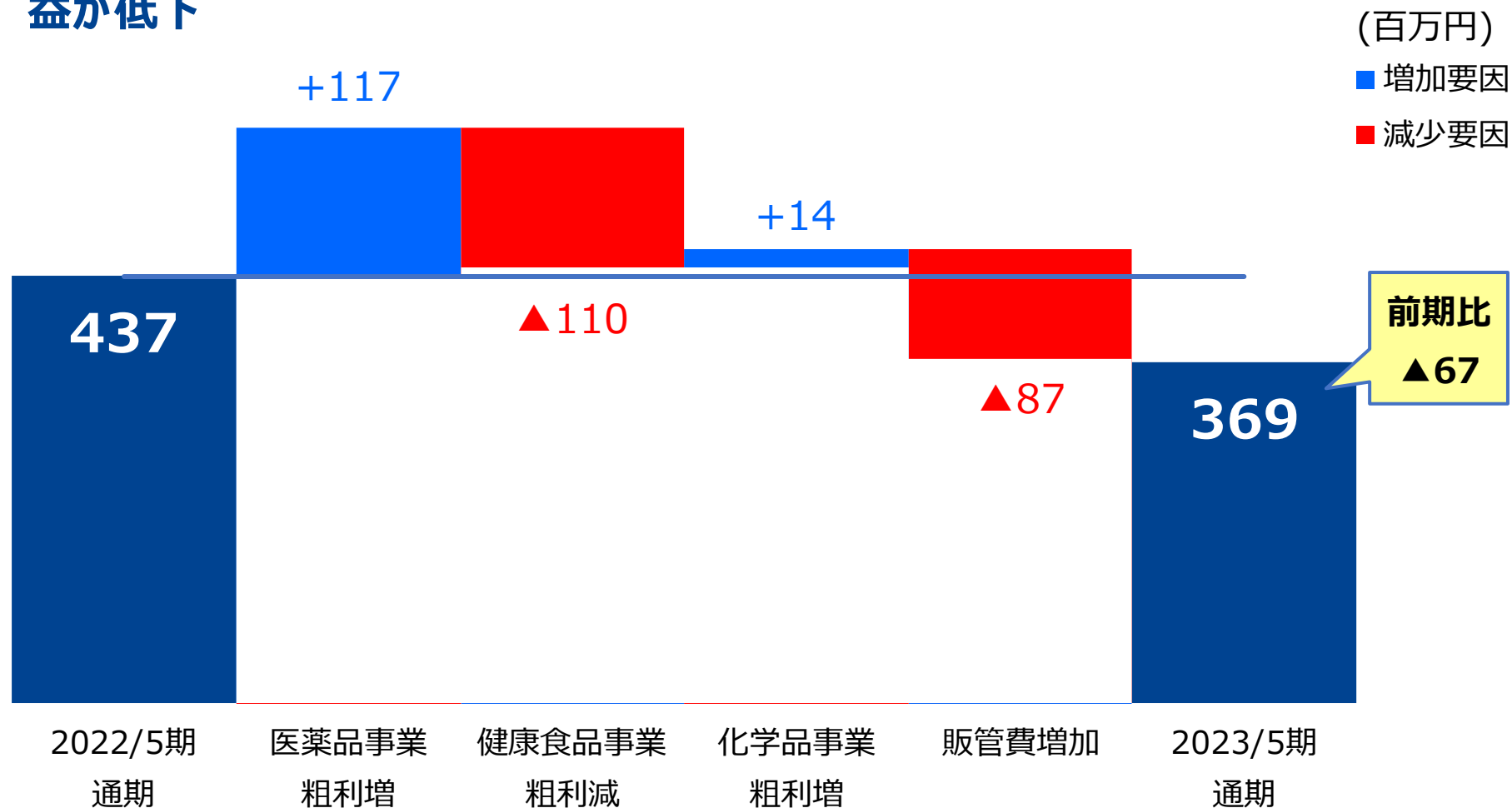
■ 商材別売上高 (単位：百万円・■：前期 ■：今期)



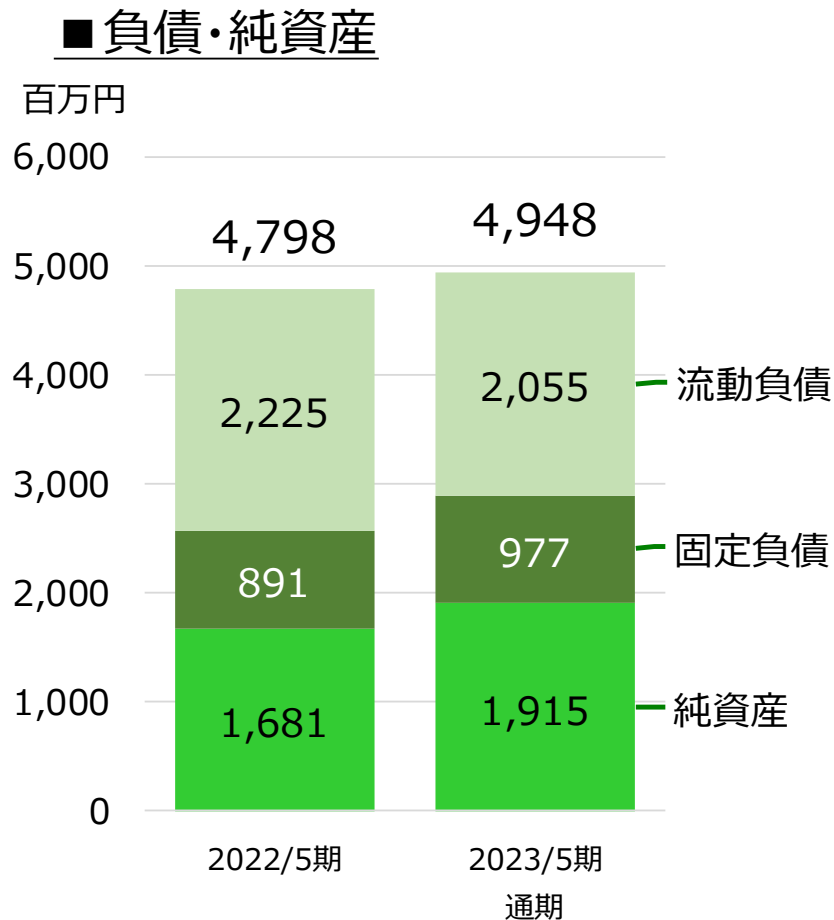
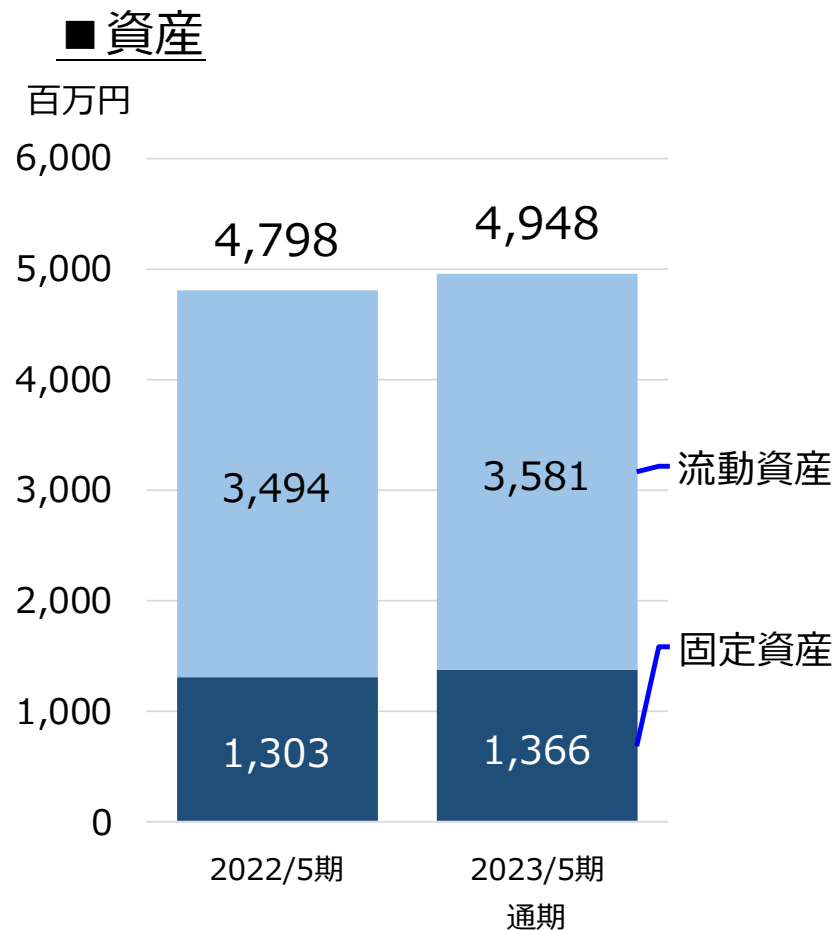
- 売上は大きく増加したものの原価率の悪化によって、売上総利益は微増
- 行動制限緩和により営業・開発活動が活発化したことで、販管費が増加



- 医薬品事業は売上増にともない売上総利益が増加
- 健康食品事業は売上減と工場稼働率の低下にともなう原価率上昇により売上総利益が低下

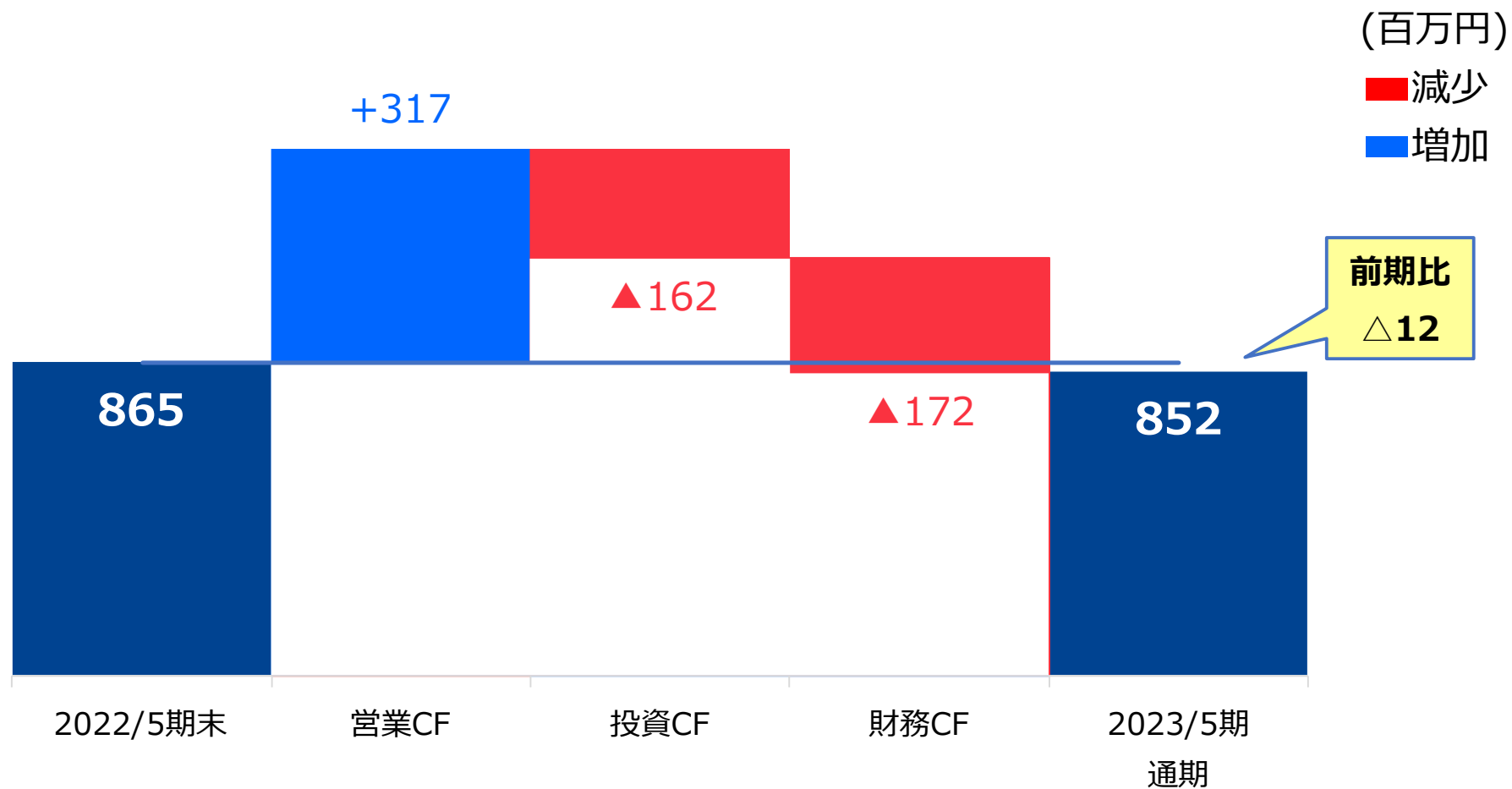


## ● 輸入原薬の売上増加に伴い、棚卸資産が増加



**自己資本比率 : 38.7% (前期末比 +3.7pt)**

- 医薬品工場の改装などの設備投資を実施





# 業績予想



- 売上高は医薬品事業の減収分を健康食品事業と化学品事業で補う
- 売上構成比の変化（製品比率の増加）により原価率は改善

(百万円)

	2023/5期		2024/5期予想		前期比	
		構成比		構成比		増減率
売上高	6,291	100%	6,400	100%	109	1.7%
営業利益	369	5.9%	400	6.3%	31	8.4%
経常利益	350	5.6%	380	5.9%	30	8.6%
当期純利益	256	4.1%	310	4.8%	54	21.1%
配当金（円/株）	19.0	—	19.0	—	0.0	0.0%
減価償却費	122	—	148	—	26	21.3%
設備投資額	181	—	298	—	117	64.6%

医薬品  
事業

売上高

2023年5月期  
3,525 百万円2024年5月期  
3,300 百万円

- ・前期好調の抗てんかん薬は例年並みに戻り、売上が減少する見込み
- ・既存加工案件や新規合成案件など自社製造品は売上増を見込む

健康食品  
事業

売上高

2023年5月期  
657 百万円2024年5月期  
800 百万円

- ・OEMゼリーの新規案件の獲得による売上回復に注力
- ・生産体制の見直しなどにより、原価率の改善を図る

化学品  
事業

売上高

2023年5月期  
2,108 百万円2024年5月期  
2,300 百万円

- ・引き続きイオン交換樹脂の販売が堅調に推移する見込み
- ・複数の装置案件の売上も見込み、売上増となる予想

# 中期経営計画の取り組み状況・トピックス



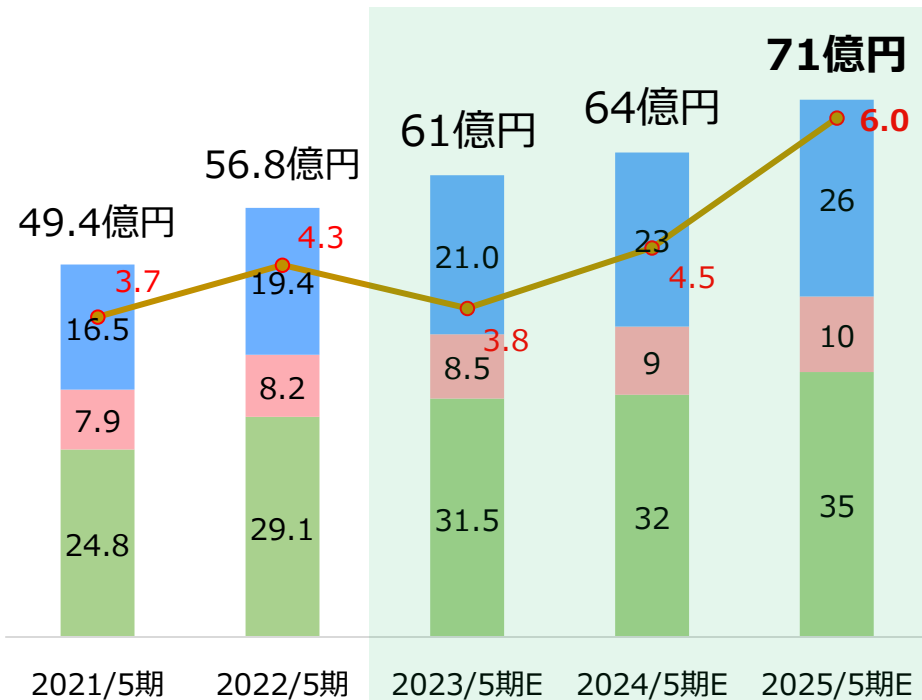
**売上高：71億円**  
(対FY22：+25.0%)

**営業利益：6億円**  
(対FY22：+37.2%)

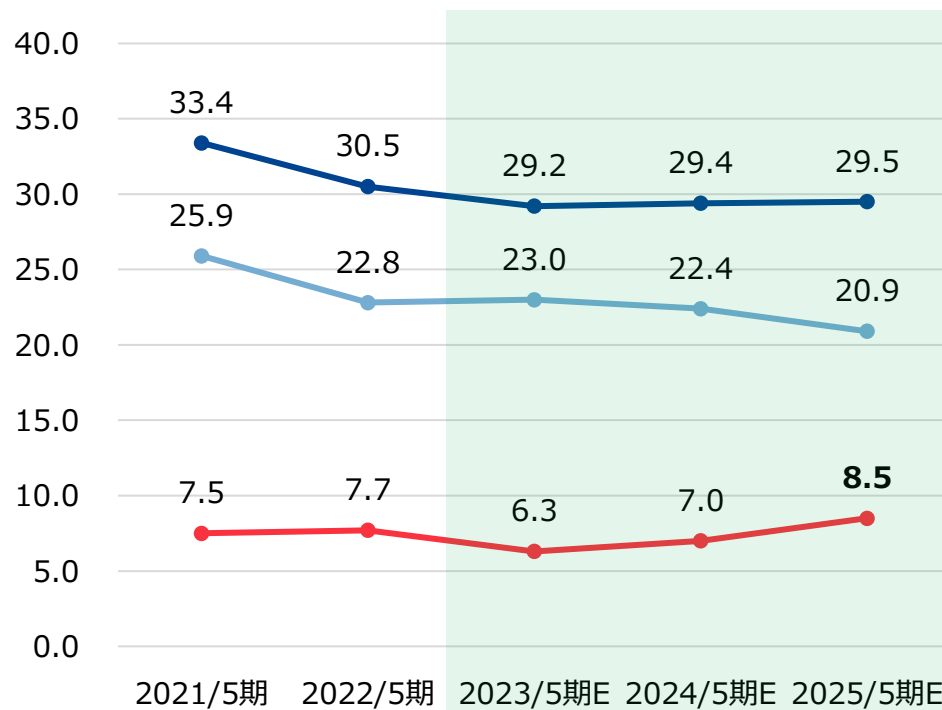
**営業利益率：8.5%**  
(対FY22：+0.8P)

売上総利益率を維持しつつ、売上を伸ばすことで、営業利益増加を図る。

売上高・営業利益 計画（単位：億円）



各利益率 計画（単位：%）



■ 医薬品 売上高 ■ 健康食品 売上高 ■ 化学品 売上高 ● 営業利益

● 売上総利益率 ● 販管費率 ● 営業利益率

## （医薬品）

- 輸入原薬の横展開によるシェア拡大
- 特異技術による自社新製品の立上げ
- 治験薬の受託合成による新薬開発サポート
- 多拠点(欧州～東アジア)からの調達ネットワーク構築
- 新規海外調達先の日本品質基準への対応サポート

## （化学品）

- 海外イオン交換樹脂メーカーとの共同開発品の拡販
  - 火力・原発向け高架橋度イオン交換樹脂
  - 半導体関連向け高純度イオン交換樹脂
- 競合の少ない特殊な液体処理でのニーズ取込み

## （健康食品）

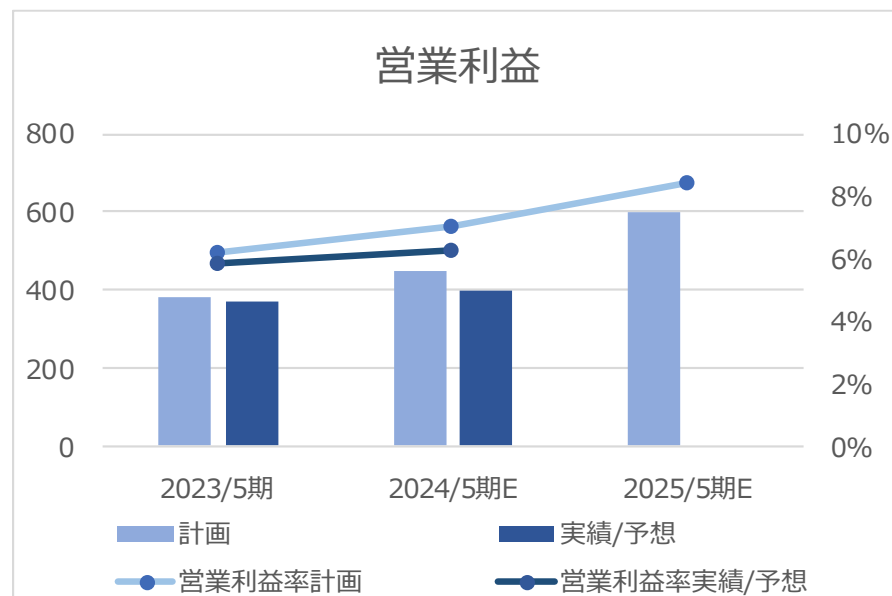
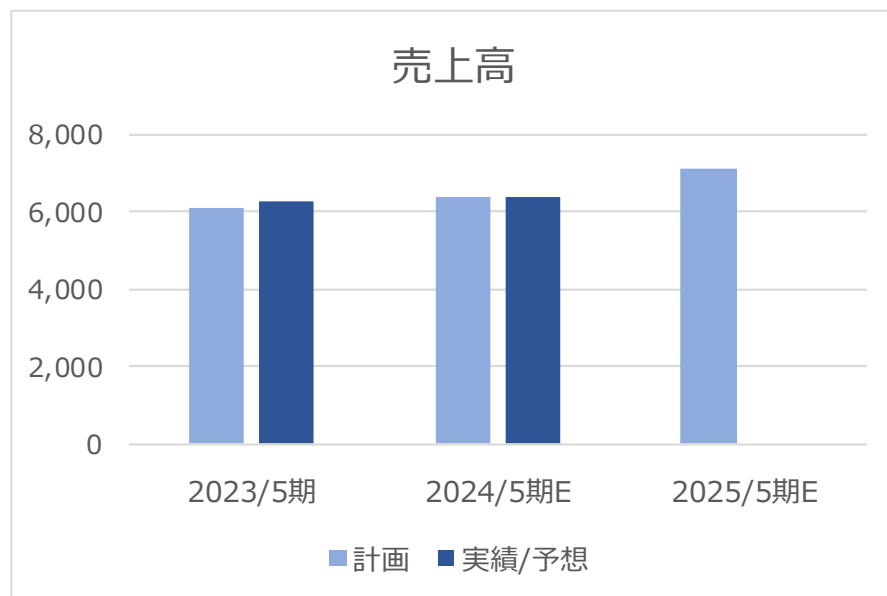
- 通販業者向けODM製品の拡販
- 原材料メーカーとの協業による顧客獲得
- 機能性表示に対応した製品の企画・提案
- 高齢者向け製品への応用加速
- 容量増に対応できる『Tパウチ・ショット』の拡販

## （生産・品質・管理）

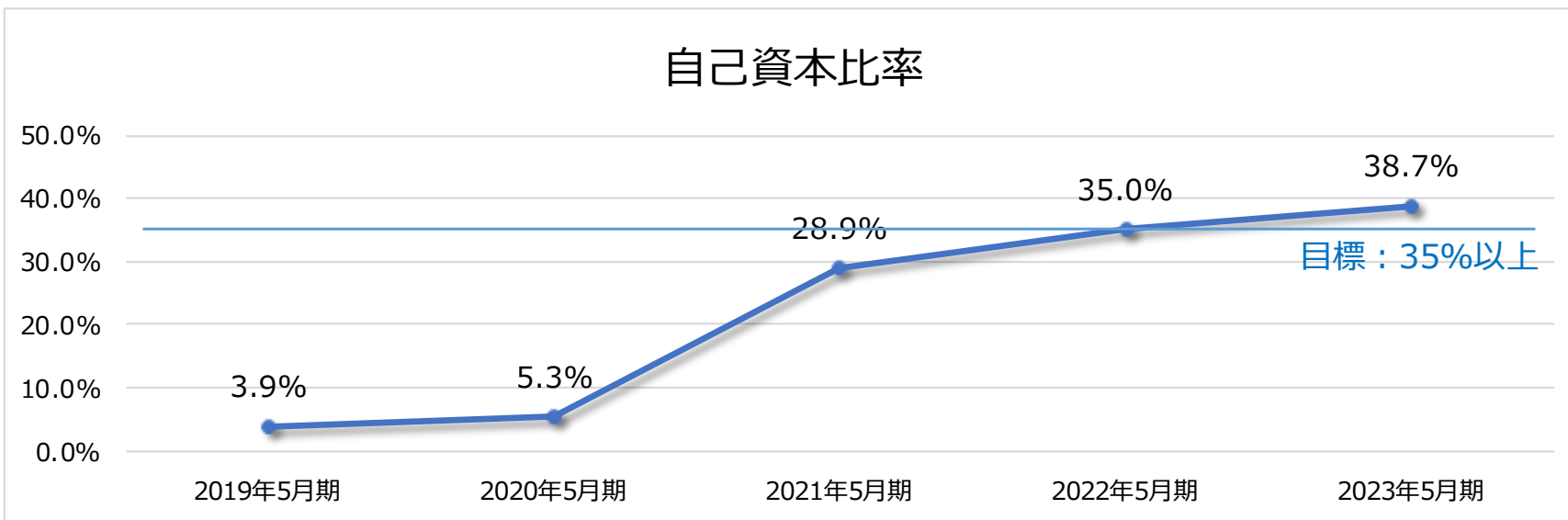
- 効率的な工場運営
  - 新規開発案件立ち上げに伴う製造ラインの最適化
  - 生産量増加に伴うインフラ及び物流戦略の再構築
  - 原価低減の取り組み
- 法令遵守体制の継続
- 抜け漏れのない品質管理体制の維持・強化
- より強固な文書管理体制の構築
- 人材の育成、職場環境の改善、従業員満足度の向上

(百万円)

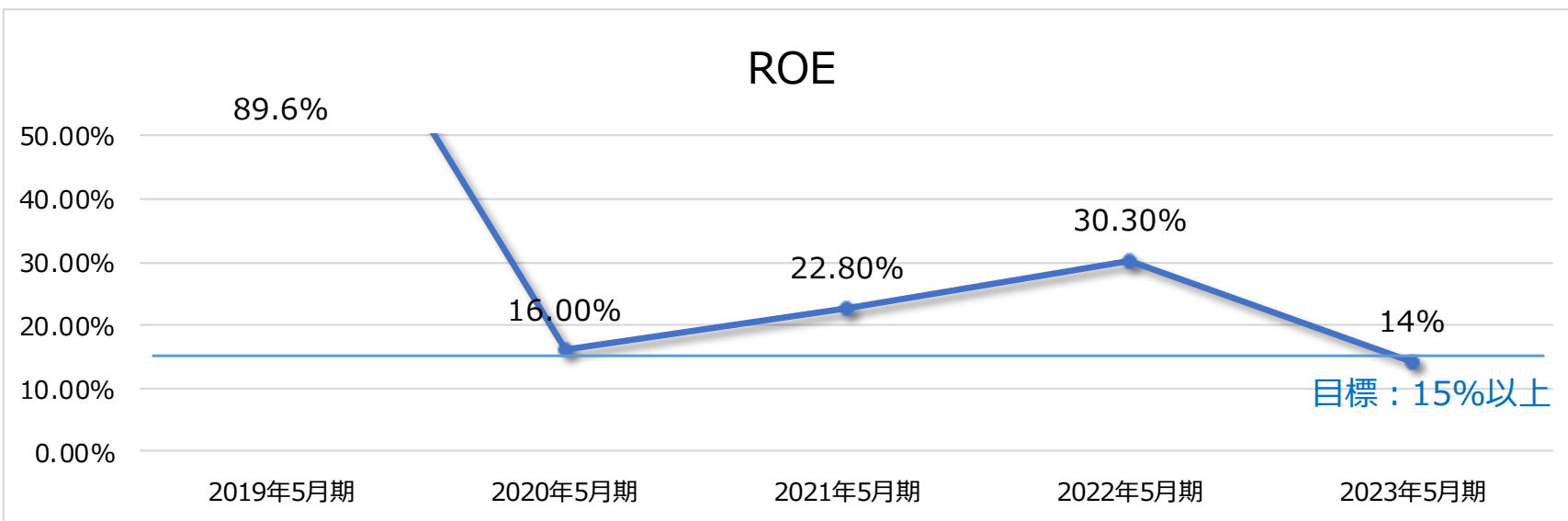
	2023/5期		2024/5期		2025/5期
	計画	実績	計画	業績予想	計画
売上高	6,100	6,291	6,400	6,400	7,100
営業利益	380	369	450	400	600
営業利益率	6.2%	5.9%	7.0%	6.3%	8.5%



## 自己資本比率



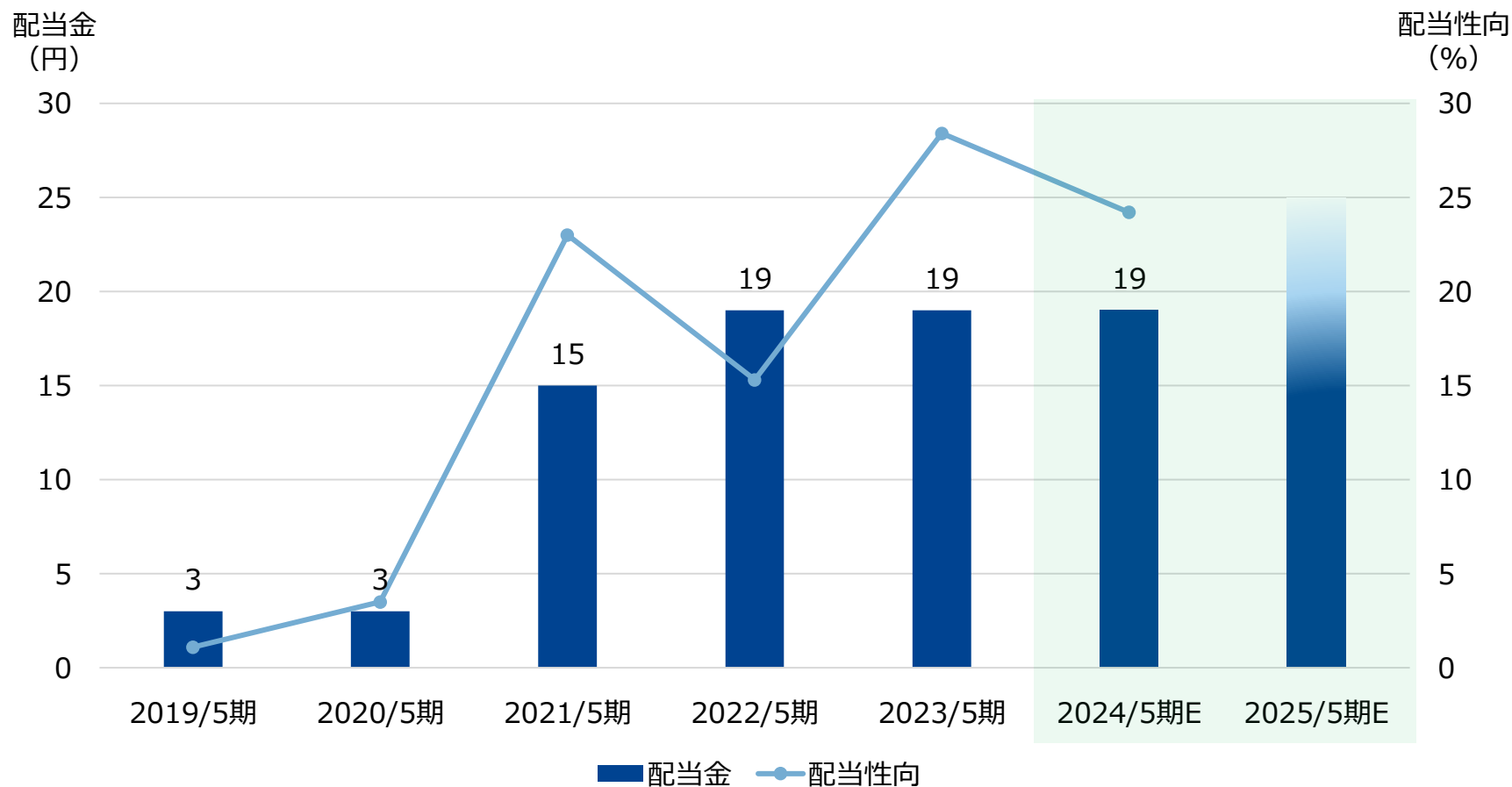
## ROE





## 安定配当を基本

～配当性向20%以上を目標に業績に応じた安定的な配当方針～



## 医薬品事業

### 治験薬2品目の生産をまもなく開始

新薬の開発段階である治験薬2品目の製造を受注。

ラボスケールの少量合成での検討を重ね、2024年5月期より本生産を開始する。

50百万円/年程度の売上を見込む。

## 医薬品事業

### 新製品生産対応に向けた医薬品工場の設備投資

新規案件の本生産開始に向け、医薬品工場のレイアウト変更や機械設備の導入を開始している。

設備投資額 約2.5億円（2023年5期～2025年5月期）

現時点で具体化してきている案件で、2026年5月期以降 約3億円/年の売上を見込む。開発案件数は新規引き合い・リピートとも増加してきており、さらなる生産品目増加に向け取り組んでいく。



## 化学品事業

### 水処理システムに関する特許取得

自動制御により液体処理を行う可搬式のシステムユニットを開発し特許を取得。

イオン交換樹脂や分離膜を使用する際に様々な条件を設定して処理することが可能であり、従来よりコンパクトでありながら、メンテナンス性が改善されている。

この装置を用いる事で、より簡便な実液処理の検討や更なる用途開発が期待される。

化学品事業

## 用途別イオン交換樹脂の共同開発

電子材料の高度精製用途など様々なテーマで、イオン交換樹脂メーカーと共同開発に取り組みを進めている。開発品のサンプル提供を行うなど、30社以上と商談が進行中。

化学品事業

## ムロマック ミニカラムが人気商品に

イオン交換樹脂など様々な吸着剤の実験に使われ、多くの論文にも掲載されているムロマックミニカラムの引合いが増加しており、近年はアジア、欧米など海外の研究機関や大学などからの受注も増えている。2023年5月期には、約5,500ヶ所の大学研究室へサンプル配布を実施し、学会などでも反響・引合いを頂いている。

< ムロマック ミニカラム >  
ポリプロピレン製で耐薬品性にすぐれたミニカラム  
イオン交換樹脂のスクリーニングなどの初期検討に使用される



化学品事業

## 情報発信の強化

イオン交換樹脂の新たな市場・用途を開拓のため、多くの市場・産業に向けたPRを強化している。2023年5月期は展示会出展、講演・学会発表などを25回実施、2024年5月期は36回を計画。

当社が運営するWebサイト「イオン交換樹脂総合情報センター（<https://ionexchange-info.com>）」でも、イオン交換樹脂に関する様々な情報を発信し、2023年5月期には東北大学大学院工学研究科の廣森浩祐先生からイオン交換樹脂に関する記事を寄稿いただいた。

# 参考資料



- 明治期** 福岡県須恵町において「須恵目薬」の製造・販売開始
- 1917年** 福岡県直方市に「大洋製薬合資会社」を設立
- 1924年** 福岡市東区に移転『天洋社』と改称
- 1938年** 福岡市南区に移転。
- 1944年** 戦時企業整備（県内の製薬会社を1社にする制度）により会社を解散し、一時廃業
- 1947年** 戦後、「鉄ペプトン製薬有限会社」として再設立
- 1948年** 販売会社として、「株式会社天洋社」を再設立
- 1950年** 「株式会社天洋社」を「鉄ペプトン製薬有限会社」に合併し、社名を「天洋社薬品有限会社」とする。
- 1952年** 社名を「天洋社薬品工業株式会社」と改称
- 1971年** ムロマチグループに参入
- 1996年** 福岡県大牟田市に本社工場を新築移転
- 1998年** 『室町ケミカル株式会社』に社名変更
- 1999年** 医薬品第二工場を新設 ISO9001認証取得
- 2003年** 本社隣接地に物流倉庫新設
- 2005年** 『天洋社薬品株式会社』設立 東京支店開設
- 2006年** 健康食品製造工場操業開始  
表面処理工場操業開始
- 2009年** 新事務所竣工
- 2010年** コンパウンド工場操業開始 表面処理事業より撤退
- 2010年** 室町(上海)商貿有限公司設立
- 2011年** 第三医薬品工場新設 尿素水工場操業開始  
ムロマチテクノス株式会社より、つくば工場譲受
- 2013年** 新勝立倉庫竣工  
東京都千代田区神田駿河台に東京支店を移転
- 2014年** 『東進ケミカル株式会社』の全株式を取得し  
100%子会社化  
ムロマチテクノス株式会社を吸収合併
- 2016年** つくば工場にインキ接着剤工場を新設  
機能性樹脂コンパウンド事業より撤退  
大牟田本社に医薬品ゼリー工場を新設
- 2017年** 東進ケミカル株式会社を吸収合併  
大牟田本社に医薬品合成工場を新設
- 2018年** 天洋社薬品株式会社を吸収合併
- 2019年** 埼玉工場を閉鎖
- 2020年** 埼玉県和光市に埼玉開発センターを開設
- 2021年** 東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)市場に上場

## 長年培った技術を活かし、お客様の事業をサポートします。

### 医薬品 事業

#### メーカー機能と商社機能を併せ持ち、原薬に関わる様々なサービスを提供

品質と価格を満たす原薬を調達できる「商社機能」と医薬品製造の「メーカー機能」を併せ持ち、輸入・製造・加工・分析とトータルサービスを提供します。

### 健康食品 事業

#### 高度なマスキング技術で、求める“おいしさ”を具現化

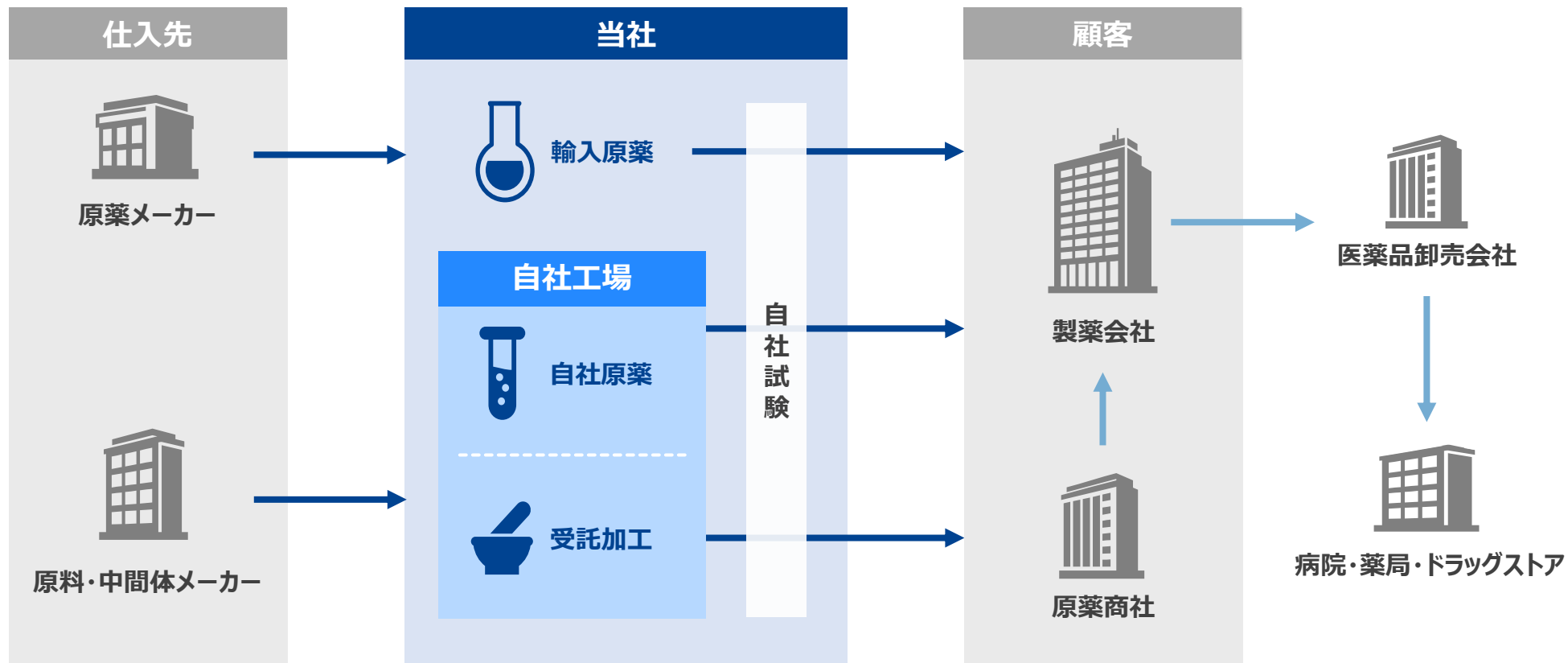
健康・美容成分には食べづらい味や匂いのもありますが、それらを包み隠す「マスキング技術」で、食べる健康食品にとって重要な「おいしさ」を追求しています。

### 化学品 事業

#### 特殊な用途にも対応できる技術で液体処理の課題を解決

排水の処理や薬品の精製など、案件によってカスタマイズが必要な特殊な用途でも、豊富な製品ラインナップと培ってきたノウハウで、最適な製品や処理方法をご提案します。

病院や薬局などで提供される医薬品は、有効成分となる「原薬」と様々な添加剤で出来ています。当社の医薬品事業では、この「原薬」の製造・販売を行っています。現在当社が取り扱っている原薬は、医療用医薬品\* (ジェネリック医薬品\* )向けが主となっております。



\* 医療用医薬品(医家向け医薬品)

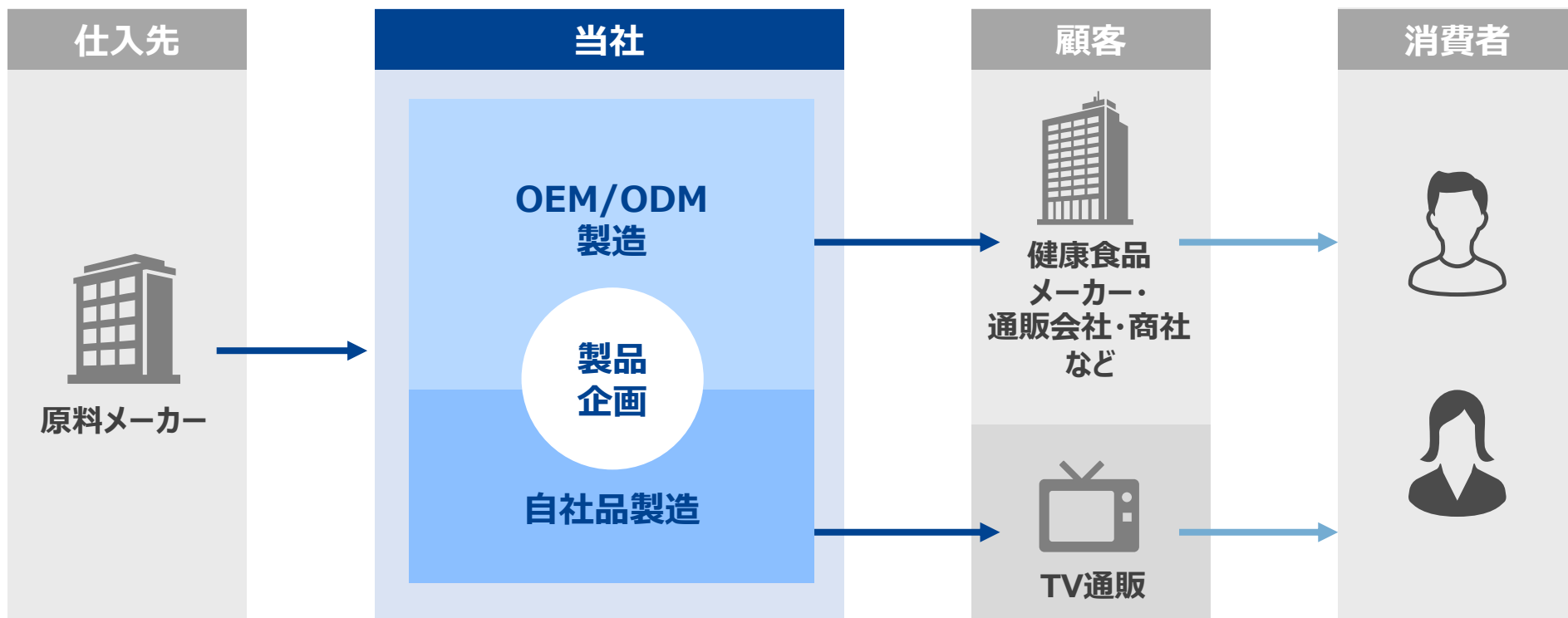
・・・病院で医師の診断をもとに処方してもらう薬のこと。対して、薬局等で購入できる薬を一般用医薬品(OTC薬品、市販薬)という。

\* ジェネリック医薬品(後発医薬品)

・・・新薬(先発医薬品)の特許が切れた後、同じ有効成分を使って製造される薬。新薬に比べ開発費用が抑えられるため低価格で提供される。

健康食品には、錠剤、カプセル、粉体、ドリンクなど様々な形態がありますが、当社は、「スティックゼリー」タイプの健康食品の企画・製造を行っています。現在は、OEM・ODM\*が主となっており、売上の8割を占めています。

スティックゼリーの健康食品は、おやつ感覚でおいしく、水が無くても摂取できる、携帯しやすい、などの特徴があります。



\* ODM (Original Design Manufacturing)

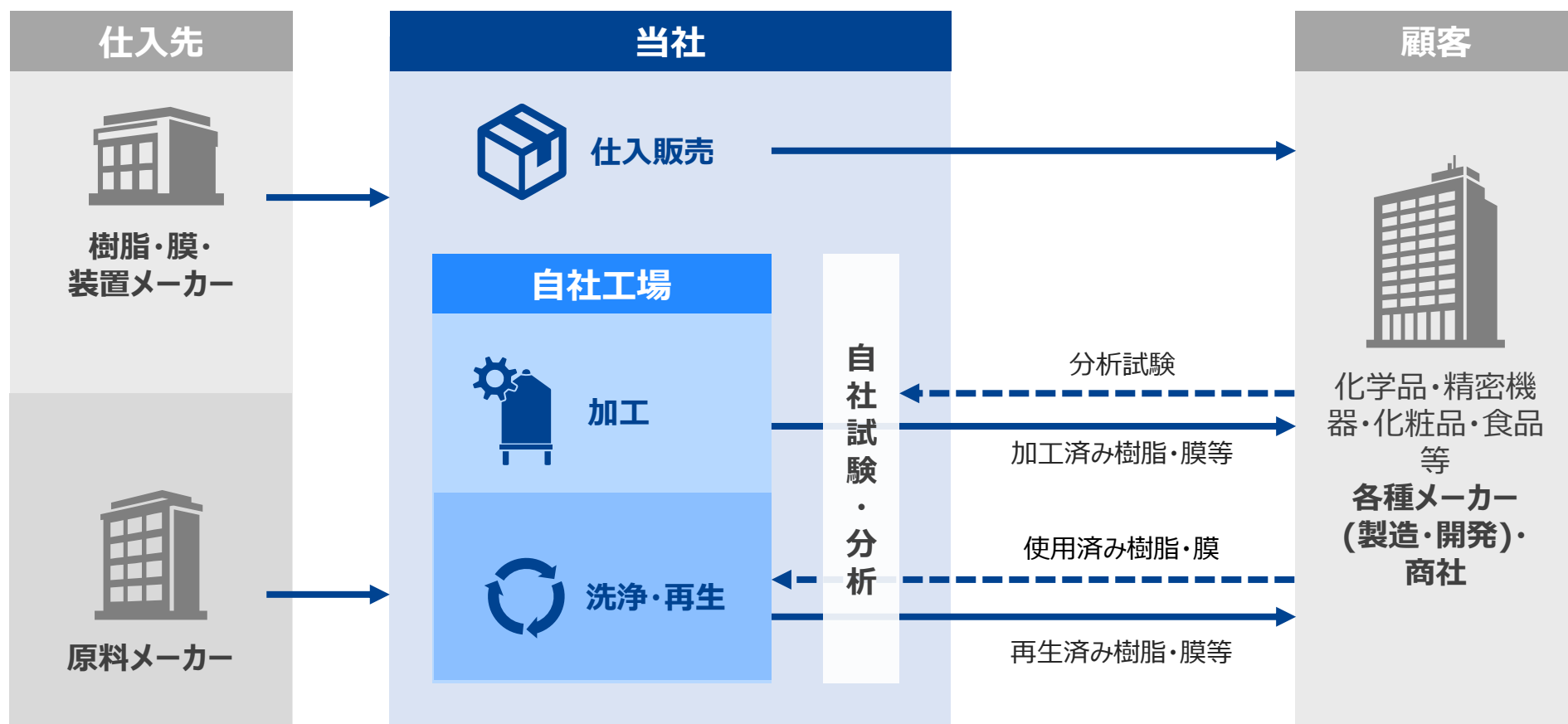
…発注元企業のブランド名で販売される製品の、製造のみを行うOEM (Original Equipment Manufacturing) に対し、ODMは企画や設計、製造までを行う。



液体処理に使用される「イオン交換樹脂」や「分離膜」を取り扱っています。目的に適した製品の提案をするほか、使用に適するよう加工も行います。

様々な業界の製造や開発の現場で使用される純水や軟水の製造、薬品の精製、排水の処理など、活用される場面は多岐にわたります。

他に、接着剤やペーストなど機能材料の加工や販売をおこなっています。



∞ ひろがる、ケミカル。

 室町ケミカル株式会社

(東証スタンダード 証券コード：4885)

<https://www.muro-chem.co.jp/>

〈本資料に関するお問い合わせ先〉

室町ケミカル株式会社 経営企画室

E-mail : [ir-kikaku@muro-chem.co.jp](mailto:ir-kikaku@muro-chem.co.jp)

〈本資料取扱上の注意点〉

本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、経営環境の変化等により、予告なしに変更される可能性があります。また、実際の業績等は様々な要因により変動する可能性があります。

掲載の内容については未監査の数値も含まれており、確度を保証するものではありません。また、掲載された情報やその誤りについて、その理由に関わらず、当社は一切責任を負うものではありません。

本資料は投資家の皆様に当社をご理解いただくことを目的として当社が作成したものであり、投資勧誘を目的にしたものではありません。投資に関するご決定は皆様ご自身のご判断で行うようお願いいたします。